

## 第5学年2組 道徳学習指導案

篠栗町立篠栗小学校

### 1 主題名及び資料名

主題名「相手の立場に立って親切に」 2－（2）「だれに対しても思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って親切にする」  
資料名「最後のおくりもの」（私達の道徳 小学校5・6年）

### 2 主題設定の理由

内容項目の解釈	児童の実態
<p>「親切」とは、相手の立場や状況、心情を理解し、自分ができるような働きかけをすることが相手のためになるのかを考え判断して行うものである。困っている人を目にした時、はっとして「何とかしたい。」という思いになり、そこに判断が加わって具体的な行動を選択する。この判断は、相手の立場や状況、心情に自分の経験を重ねることで行うことができる。利害や損得のない温かい思いやりの気持ちが存在するものこそが、真の親切である。</p> <p>2－（2）に関しては、低学年において、幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること、中学年において、相手のことを思いやり、進んで親切にすることを学習した。これを受けて、本主題では、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることをとらえさせたい。これは、中学校における温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ学習へと発展する。</p>	<p>本学級の児童は、人の役に立つ喜びを知り、人のために進んで何かしたいという気持ちを持っている。身近な人が困っていると、励ましたり助けたりすることができる。しかし、地域の中で困っている人を見かけてもなかなか行動できないでいる。</p> <p>これは、人のためになることをしようという気持ちはあるが、身近な人以外の人において、立場や状況、心情を十分に理解することができていないからである。</p> <p>そこで、相手の身になって人の心を思いやる共感能力が発達してくるこの期に、本主題を設定する。そして、相手の立場や状況、心情を理解し、相手のためになることを考えて誰に対しても親切にしようとする心情を育て、実践への意欲を高めていきたい。</p> <p>このことは、親切の本義を感得させるとともに、よりよい生き方を求め続け、実践する子どもを育てる上で意義深い。</p>

資料の含みもつ道徳的価値
<p>本資料「最後のおくりもの」は、有名な劇団の俳優になる夢をもつ貧しいロベータに、劇団養成所の守衛ジョルジュじいさんが、劇団に入れるように秘密で月謝代を送り応援するという内容である。ジョルジュじいさんが体をこわし月謝代が払えなくなったことをきっかけに、ロベータは送り主がジョルジュじいさんであったと気づき、おじいさんの看病をすと名乗り出て、おじいさんがなくなった後も夢に向かって頑張る。</p> <p>資料の感動場面とその理由について話し合うことにより、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にするという親切の価値を感得し、道徳的価値に迫ることができるものであると考える。</p>

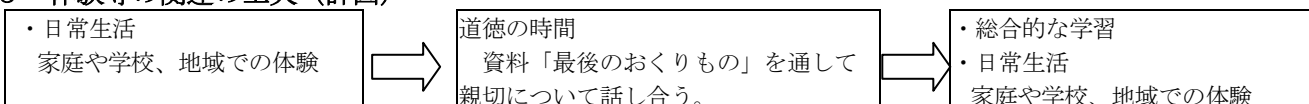
### 3 本時の目標

<p>(1) 相手の立場や状況、心情を理解し、相手のためになることを考え判断して行うことが親切であると分かり、相手の立場に立って誰に対しても親切にしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 親切に関する事前アンケートからめあてを設定し、資料の感動場面とその理由について話し合いを通して道徳的価値を見出し、これまでの生活経験における自分のよさを振り返ることにより、親切の価値を感得できるようにする。</p>
---

### 4 本時学習の工夫点

「見つめる」段階における工夫	「推しはかる」段階における工夫	「見つめ直す」段階における工夫
<p>「見つめる」段階では、「親切」についての方向付けをするために、事前アンケート結果を提示し、「今まで誰にどんな親切をしたことがあるか」を振り返らせる。身近な人とそうでない人に対しては行動に違いがあることに気づかせ、「誰に対しても親切にする」という課題意識をもたせ、「親切の心を大きくしよう。」という本時のめあてをもつことができるようにしたい。</p>	<p>「推しはかる」段階では、読み物資料「最後のおくりもの」を感動的に活用する。まず、資料を読み、事前書き込んだ考えをもとに感動した場面について話し合い、感動の意識化を図る。次に、感動した理由をノートに書かせた後、交流を行い、感動の理由を交流し、感動の波及・深化を図る。そして、それぞれの場面の感動した理由をもとに、共通する大切な心について話し合うことを通して感動の持続化を図り誰に対しても親切にするという親切の価値に気付かせたい。</p>	<p>「見つめ直す」段階では、相手の立場に立って親切にできた経験を振り返らせ、自分自身の中にも親切な心があることを感得させる。自分自身の中にある親切について見つめ直させ、価値の自覚を深めさせたい。</p> <p>次に、「私達の道徳」の詩と「心のノート」を紹介することで、実践の意欲化を図る。</p>

### 5 体験等の関連の工夫（計画）



7 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
見 つ め る	<p>1 事前アンケートの結果をもとに、これまでの体験を想起し、学習のめあてについて話し合う。</p> <p>〈身近な人に親切にしたこと〉            ・家の手伝いをした。            ・荷物を持ってあげた。            経験が多い</p> <p>〈地域の人などに親切にしたこと〉            ・席をゆずった。            ・道を教えた。            経験が少ない</p> <p>人によって親切にするのですか？</p> <p>【めあて】 親切の心をもっと大きくしよう。</p>	<p>○ 事前アンケートを提示しながら、「身近な人に親切にしたこと」と「地域の人などに親切にしたこと」の体験を振り返らせることで経験に差があることに気付かせ、「人によって親切にするのですか。」と問い、めあてにつなげる。</p>
推 し は か る	<p>2 資料「最後のおくりもの」をもとに、親切について話し合う。</p> <p>(1)資料の状況について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロベージュの夢は有名な劇団の俳優になること。</li> <li>月謝のおくり物が届き、養成所に通えるようになる。</li> <li>おくり物が届かなくなり、月謝が払えなくなる。</li> <li>おくり主がジョルジュじいさんだったと気づき、看病に名乗りでる。</li> </ul> <p>(2)資料を読み、感動した場面について話し合う。</p> <p>ジョルジュじいさんの行為</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昼の勤めも始めた場面</li> <li>月謝を届ける場面</li> <li>病院での場面</li> <li>最後の手紙</li> </ul> <p>ロベージュの行為</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>息子だと言った場面</li> <li>病院で謝る場面</li> <li>涙で文字がかすみ、決意する場面</li> </ul>	<p>○ 場面の状況把握を簡潔に行うために、構造図や挿し絵を使う。</p>
高 ま る	<p>(3)感動した理由について話し合う。</p> <p>ロベージュ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>息子だと言う場面</li> <li>謝る場面</li> <li>決意する場面</li> </ul> <p>ジョルジュじいさん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昼の勤めも始めた場面</li> <li>月謝を届ける場面</li> <li>病院で幸せだと言う場面</li> <li>手紙の場面</li> </ul> <p>人のために ↓</p>	<p>○ 感動の意識化を図るために、事前に資料を読ませ、感動したところに線を引かせておき、それをもとに交流させる。</p> <p>○ 感動した理由を明確にするために、感動した場面とその理由を道徳ノートに書かせた後、交流させる。</p>
見 つ め 直 す	<p>(4)感動の理由を整理し、まとめる。</p> <p>相手のために 相手の立場に立って 力になりたい</p> <p>誰に対しても 親切にする</p>	<p>○ 親切の価値の自覚を深めるために、以下の問いを行い、少人数から全体交流へと広げていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジョルジュじいさんがずっと持ち続けていたのはどんな心でしょう。</li> <li>・なぜロベージュの為にそこまでしたのでしょうか。</li> </ul>
見 つ め 直 す	<p>3 自分たちの生活を振り返り、親切について話し合う。</p> <p>(1) 説話を聞く。 (2) 詩を読む。</p>	<p>○ これまでの生活を振り返らせることで、自分の中にある親切を実感させ、価値の主體的自覚を図り、実践の意欲を高める。</p> <p>○ 「私達の道徳」と「心のノート」の詩を紹介する。</p>